

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	小規模多機能ではコロナ禍での利用者の安心安全を第一と考え行動している。大人数での行動が出来ないからこそ今までとは違うことを模索しながら利用者一人一人と関わっていく。運営推進会議が計画どおりに開催出来ない中今まで以上に送迎時の家族との会話だけではなく、メールや電話等のコミュニケーションを大切に意見や要望を聞き取り共有し利用者対応に活かしている。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 鯖江きらめきハウス	管理者	野村 侑希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	人	0人	人	13人	人	人	2人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらめき内での活動に幅を持たせ利用者一人一人がやりたいことを見つけられるようにサポートする。</li> <li>・ミーティングで話し合われたことは記録に落とし共有し同じケアができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングを行うことで職員全員で意見を出し合い、個々の利用者が「何を」どうしたいのか皆で考え適切なケアができるようにしている。</li> <li>・ケアパレットを活用し記録の共有を行った。</li> <li>・利用者一人一人の自宅での暮らしや昔の生活について聞き取りを行いやりたいことが見つけられるようアセスメントを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を確認して職員が話し合いを行っていることが分かったが内容が難しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に寄り添ったケアが出来るよう、アセスメントを行い「きらめきに行きたい」と思ってもらえるような場所づくりを行う。</li> <li>・職員間での共有を行いケアの質を上げる。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の写真や製作物を廊下に張り出し充実感や楽しみを持てるように工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動などを写真に納め、廊下などに掲示を行った。</li> <li>・感染症予防の為、なかなか外出が出来なかったが、県内の感染状況が落ち着いている時にはドライブなどに出掛けた。</li> <li>・感染症がありきらめき内に入っていたことは出来なかったが、地域住民の方に広報誌を配布しきらめきでの活動を知っていただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防の為きらめき内の見学をできないのが残念。</li> <li>・感染症予防の為か入りやすい感じはなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらめきの外に出て活動する機会を増やす。</li> </ul>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と交流ができるように案を検討しておく。</li> <li>・きらめき応援団を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症がありきらめき内に入っただけは出来なかったが、地域住民の方に広報誌を配布しきらめきでの活動を知っていただいた。</li> <li>・地域の見守り隊やサロンを通じて交流を図ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の広報誌で知ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に利用者と一緒に参加する。</li> <li>・きらめきの中に入れてもらう機会を作る。</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の「～が好き～」「～したい」の気持ちを実現できるように思いに寄り添っていく。</li> <li>・本人の生活に合わせたサポートができるように地域資源を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方のしたいことを聞き取り行事に取り入れることが出来た。</li> <li>・見守り隊に利用者の方と参加すること出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限がある中だが毎月行事を行って下さり楽しめて行けていた。</li> <li>・コロナが少し落ち着いたらもっといろんなところに行けるといい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の「～が好き～」「～したい」の気持ちを実現できるように思いに寄り添っていく。</li> <li>・本人の生活に合わせたサポートができるように地域資源を知る。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートで参加できるような環境作り。環境が整わない場合でも家族や地域の方の声をアンケートなど活用して集める</li> <li>・職員みんなで考えて作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内のコロナ感染状況もあり、施設の貸し出しや集まるのが難しく実施ができなかった。また、リモート環境が整わず見送りとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議が行われなかったのかわからない。</li> <li>・リモートは年配の方にはわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらめきにて運営推進会議を実施し、きらめきのことを知ってもらう。</li> <li>・一定の職員だけでなく色々な職員が参加し顔を知ってもらう。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時地域との連携が大切 防災訓練の取り組みを地域の方々に知らせ施設に興味を持っていただく第一歩にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回防災訓練を行い、実際の災害に備えた。</li> <li>・8月の大雨の際に実際に避難準備まで行い、今後どう準備していくといいのか話し合いが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌で行っている事を知れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時地域の方と連携が出来るよう、訓練も地域の方と一緒に行う。</li> </ul>